

第1学年 美術科学習指導案

奈良教育大学附属中学校 教諭 長友 紀子

1. 題材名

『場所とわたし・色で思いを表すー平城宮跡をモチーフにしてー』

2. 単元設定の意図

(1) 題材について

○ねらい

本題材では、色と光の仕組みや色と光が感情にもたらす効果の理解をもとに、奈良教育大学附属中学校（以下附属中学校と表記する）の校外学習の体験から生まれた考えや思いを抽象的に表す表現の活動を行う。本題材は、美術科と社会科及び、総合的な学習の時間との教科横断的な内容を持つ題材として立案したもので、美術科が示すねらいには、美術科としての視点と、ESD的な視点の2つを含んでいる。

・色と光の仕組みや色と光が感情にもたらす効果の理解をもとに、自分の考えや思いを抽象化して表すとともに、自他の作品の鑑賞を通して、見方・感じ方を深めることができる。（美術科の視点）

・文化財を保存していくことの意味と地域に住む人々の気持ちについて考え、自分の内面から生まれた思いと向き合うことを通して、歴史や文化がつくってきた風景を自分なりの視点で捉えることができる（ESD的な視点）

本題材では、社会科との共通の教材として「平城宮跡」を扱うが、複数の教科が共通の教材を扱うことの意義は、それぞれの教科の学習が、互いの学習の学びを深める役割を果たすところにあると考える。

例えば、社会科指導案によると、「平城宮跡」を通して、「なぜ今文化財の復原事業が進められているのか、その意義を問うことを通して文化財の価値について考えさせたい。また、先人の選択・判断が現在の平城宮跡の姿を創り出していることから、文化財の価値をふまえて未来の平城宮跡の姿を考えさせたい」という。一方、美術科では、「平城宮跡」を通して、場所と自分の関わりや、大切な場所や無くしたくない場所を思う気持ちについて考えさせたいと思っている。これは、生徒らの内面に、自分たちの生活する地域を大切に思う気持ちを育成したいからである。平城宮跡は、生徒らにとっては必ずしも身近な場所とは言いきれない。しかし、奈良の人々は平城宮を造営した時代から現在に至るまで、平城京が存在した奈良の風景とともに生きてきた。生徒らは、社会科の学びを通して社会にとっての文化財の価値について考えるという視点を持つが、美術科では、そのような視点を持った生徒の内面に、その場所を大切に守り伝えようとした人々の思いを思う気持ちを育成したいと考える。そして、学習後の生徒らが、平城宮跡の景観を見た時にどのように変容するかを見取りたいと思う。

文化財を守ることは、平城宮跡や首里城の復原事業からもわかるように、必ずしも地域の人々の思いを守ることに繋がるとは言い切れない。生徒らが生きる社会にとっての価値を大切にすることと、個人が持つ自分自身の思いを大切にすることは、時には相反する結果を生むこともある。どちらが正しい、どちらが間違っているではなく、様々な価値観や思いの中で人々は生きているのだということを、本題

材の社会科および美術科の学びを通して考えさせたい。

○奈良めぐりについて

附属中学校では、ESD の理念をもとに、1・2年生で「奈良めぐり」という地域をフィールドにした校外学習を行い、3年生の卒業研究に繋いで、3年間の総合的な学習の時間を構築している（表1）。

1年生は1学期の「奈良めぐり」で、平城宮跡をフィールドに学習を行った。平城宮跡は、世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産の一つであり、平城宮跡歴史公園として整備が進められている。1998年に朱雀門、東院庭園の復原が行われ、その後、2001年第一次大極殿の復原工事が開始されてから、2022年に第一次大極殿院南門の復原が完成するに至っている。これらの整備事業以前の景観としては、田畑の広がる長閑な風景が広がっていたことが、奈良県立図書情報館所蔵の資料写真などからわかる。現在の平城宮跡は、復原事業によって整備された建物群が見渡せると同時に、建物以外の場所は、春には花が咲き、秋にはススキの生い茂る野原の風景となっている。1年生が訪れた4月末の時期は、たんぽぽやシロツメクサなどの草花が咲き、新緑の鮮やかな時期であった。入学後、初めての校外学習で、生徒らは平城宮跡の歴史を学習するとともに、学年の仲間とレクリエーションをするなどして、1日を過ごした。

表1

	1年生	2年生	3年生
1学期	奈良めぐり「平城宮跡」	奈良めぐり「斑鳩・法隆寺」	卒業研究
2学期	1・2年生合同奈良めぐり		

○指導観

本題材は、大きく第1次から第3次までと、第4次から第6次までに分けることができる。第1次から第3次までは、制作を行うまでの道具・材料の理解や色や光の知識の習得など、制作に向けた準備の段階と位置付けている。本題材では、「平城宮跡」という教材を扱い、「平城宮跡」に対する自分の思いから主題を生み出して作品を制作する。「平城宮跡」は、生徒らにとっては校外学習で訪れる場所であり、普段から身近に感じている場所というわけではないが、奈良という地域に生活する個人として、地域の歴史や文化が育んできた景観を大切に思う気持ちを育成することは、SDGs 17の目標のうち、11「住み続けられるまちづくりを」に向かう態度を育成することにも繋がると考えている。また、「平城宮跡」は、世界遺産「古都奈良の文化財」の構成資産の一つであることから、目標11のターゲット4について考えるきっかけにもなると思われる。

第1次から第3次までの中で、本題材で意識して設定したのは、第2次の自分の思いを表出するアイデアスケッチの段階である。ここでは、400字の作文用紙を用意し、2つのテーマで作文を書いた後、2つ目のテーマ「なくしたくない場所」について対話を行った。この段階を設定した理由は、普段目にする生徒の様子から、何か行動をしようとする時の原動力となる「思い」を持つ部分が弱いのではないかと感じたからである。先にも述べたように、「平城宮跡」は生徒らにとって身近な存在であるとはいえない部分もあるため、一足飛びにテーマに至るのではなく、より身近なところで何かを大切に思ったり、無くしたくないと思ったりする気持ちを自覚できる段階を設定した。その後、実際の作品制作に繋げる段階として、作品に使う色を選ぶ中で、色に託した自分の思いを書き出す作業を加え、「平城宮跡」という

対象に自分の思いを繋ぐことができるように設定を行った。

第4次から第6次は、実際の制作と鑑賞の段階である。制作では、アイデアスケッチのワークシート作成の段階で対話の場面を設け、自分の思いを友だちに話すことや、友だちの思いを聞くことを通して、アイデアを深めることができるようにした。鑑賞は相互鑑賞を行い、社会科と美術科の単元が全て終了した段階で、「平城宮跡」をどのように感じているかを文章化させる。これらの学習を通して、生徒には、さまざまな視点からの学習や、実際の経験をもとに、自らの思いを見つめ、主題を生み出し、つくることの面白さを感じさせたい。

○生徒観

本学級は、活発に発言し授業に参加する生徒がいる一方、自分からは積極的に質問したりすることのできない生徒もいるような混合的な学級である。全体指導で指示を聞くことができる部分と、困りごとを個々に汲んで対応する必要がある部分があるため、状況を観察しながら丁寧に授業を進めるようにすれば、落ち着いて授業に取り組むことができる。

授業への興味関心は高く、課題に真摯に取り組もうとする姿勢があるので、安心して活動できる教室環境の中で制作に取り組ませたいと思う。また、友だちの意見を、興味を持って聞くことができるので、対話の場面を活用し、アイデアの深まりを促したい。

○ ESD との関連

〈本学習で働かせる ESD の視点（見方・考え方）〉

多様性：文化財を保存していくことの意味や地域に住む人々の気持ちについて考え、様々な捉え方があることを理解する。

相互性：平城宮跡を含む奈良の景観から、人間の営みと地域・社会とのつながりについて多面的に考える力を身につける。

連携性：地域がそこに住む人々にとって持続可能であるためには、多様な人々の考え方に共感したり、考えを伝え合ったりして、相互につながり合いながら社会を構築していく必要があることを知る。

〈本学習で育てたい資質・能力〉

多面的・総合的に考える力

文化財を保存していくことの意味と地域に住む人々の気持ちについて考え、そこから生まれた自分の思いを作品にすることとで、人と地域・社会とのつながりについて多面的に考える力を身につける。

コミュニケーションを行う力

自分の思いや意図から主題を生み出し、作品に表現すること、鑑賞の場面で、他者の思いや意図について考えたり、自分の思いを伝えたりすることで、コミュニケーションの力を育成する。

つながりを尊重する態度

「誰かにとって大切な場所」「自分にとって大切な場所」について対話することを通して、他者の思いに共感し、つながろうとする態度を育てる。

〈本学習で変容を促す ESD の価値観〉

- ・人と環境との関係（社会）

自分と他者の思いを受け止め、共感しながら、地域の文化や環境を守るためにできることを考える。

- ・人と人との関係（世代間・世代内の公正）

地域の文化や環境をつくってきた過去の人々の思いや、現在を生きる自分たちの思い、これから地域をつくっていく世代の思いをそれぞれ考えながら、答えを探し続ける姿勢を持つ。

〈達成が期待される SDGs〉

- ・目標 11：すみ続けられるまちづくりを
- ・目標 17：パートナーシップで目標を達成しよう

（2）単元の展開構想

○本時までの取り組み

本題材は、入学後初めての課題となる。4月にアクリル絵の具の使い方を学び、4月末に奈良めぐりを実施した。5月中に第3次までを実施している。

○指導計画（全12時間）

- 第1次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（2時間 + 奈良めぐり）
「色について知る」（奈良めぐりで色探し）
- 第2次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（2時間）
「私の大切な場所」「なくなってほしくない場所」（自分の思いを表出する・アイデアスケッチ）
- 第3次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（2時間）
「平城宮跡とわたしの色」（アイデアスケッチ）
- 第4次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（2時間）
「平城宮跡ってわたしにとってどんな場所？」（制作）
- 第5次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（2時間）
「平城宮跡ってわたしにとってどんな場所？」（制作）
- 第6次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（2時間）
「思いを語る・聴く」（鑑賞）

3. 単元の評価の観点と規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、光などが感情にもたらず効果や、造形的な特徴をもとに、場所に関わる私の思いを全体のイメージで捉えることを理解している。(知) ・アクリル絵の具やハサミ等の道具の使い方を身に付け、意図に応じて工夫して表現している。(技) 	<ul style="list-style-type: none"> ・平城宮跡の風景から感じ取った形や色彩の特徴や、場所の歴史や文化から感じ取った思いなどをもとに主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。(発) ・造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。(鑑) 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術の創造活動の喜びを味わい、平城宮跡の風景や場所の歴史、文化から感じ取った思いなどから生み出した主題をもとにした表現の学習活動に取り組もうとしている。(態表) ・美術の創造活動の喜びを味わい楽しく作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。(態鑑)

＊ (知)：「知識・技能」の知識に関する評価規準、(技)：「知識・技能」の技能に関する評価規準
 (発)：「思考・判断・表現」の発想や構想に関する評価規準、(鑑)：「思考・判断・表現」の鑑賞に関する評価規準、(態表)：表現の「主体的に学習する態度」に関する評価規準、(態鑑)：鑑賞の「主体的に学習する態度」に関する評価規準

4. 本時の展開計画（6月16日・第5次）

(1) 本時の目標

「知識及び技能」に関する目標

- ・形や色彩、光などが感情にもたらず効果や、造形的な特徴をもとに、場所に関わる私の思いを全体のイメージで捉えることを理解する。(共通事項)
- ・アクリル絵の具やハサミ等の道具の使い方を身に付け、意図に応じて工夫して表現する。〔A 表現〕

「思考力、判断力、表現力等」に関する目標

- ・平城宮跡の風景から感じ取った形や色彩の特徴や、場所の歴史や文化から感じ取った思いなどをもとに創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練る。〔A 表現〕(1))

(2) 本時の評価

(知識・技能)

- ・形や色彩、光などが感情にもたらず効果や、造形的な特徴をもとに、場所に関わる私の思いを全体のイメージで捉えることを理解している。
- ・アクリル絵の具やハサミ等の道具の使い方を身に付け、意図に応じて工夫して表現している。

(思考・判断・表現)

- ・平城宮跡の風景から感じ取った形や色彩の特徴や、場所の歴史や文化から感じ取った思いなどをもとに主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。

(3) 学習展開過程

指導内容	生徒の学習活動	指導上の留意点と評価 (○留意点●評価)
前時までの流れ		
「思いをかたちに変えてみる」(感情を抽象形で表す・アイデアスケッチ)		
本時ここから 本時の内容を説明する ・アイデアスケッチ(ワークシート)を作成する ・自作の色画用紙を切って構図を考える	本時の流れを知る ・アイデアスケッチ(ワークシート)を作成する ・自作の色画用紙を切って構図を考える	●形や色彩、光などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴をもとに、場所に関わる私の思いを全体のイメージで捉えることを理解している。(知) ●主題を生み出し、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。(発)
発問:「アイデアを友だちに話してみよう。友だちの話聞いてみよう、思いを語り合おう」		
・友だちとアイデアを交流する	・友だちとアイデアを交流する	●主題をもとにした表現の学習活動に取り組もうとしている。(態表)
発問:「交流した内容をもとに、改めて自分の作品を考えよう」		
・制作を続ける	・制作を続ける	
本時のまとめ 次回の流れについて	本時のまとめ 次回の流れについて確認する	

4. 成果と課題

本題材は、異なる教科において、同学年、同時期の授業で、同じ素材(平城宮跡)を扱うことで生徒の学びを深めようと試みた実践である。本題材は、美術科の観点、ESDの観点、教科連携の観点から見ることができ、ここでは、ESDの観点、教科連携の観点から成果について検討し、それらをふまえた今後の課題について述べようと思う。

成果

①ESDの観点

本題材では、育てたいESDの資質・能力を「多面的・総合的に考える力」、「コミュニケーションを行う力」、「つながりを尊重する態度」とした。奈良は、今回素材として取り上げた平城宮跡をはじめ、多くの文化財・史跡が人々の居住地に隣接して存在し、独特の景観を形成している地域である。奈良に育った子どもたちにとっては、文化財・史跡のある風景は当たり前のものであり、長い年月変化しないそれらの風景を肯定的に受け止める反面、近隣の大阪などの大都市に憧れを持ち、「奈良には何もない」「田舎でつまらない」といった否定的な感覚も持っている。

今回の題材では、平城宮跡を素材としながら、誰もが、「自分の大切な場所」に対する思いを持っていること、目の前にある当たり前の風景は、そういった思いのある場所の連なりで形成されていることに考えを及ぼし、未来に向けて自分たちの地域をどんなふうにつくっていきたいかを考えることができるようになってもらいたいと考えた。

題材を通して、生徒たちの変化が生まれたと感じたのは、作品を制作する過程で、「私の大切な場所」「なくなってほしくない場所」について作文を書いた場面である。この場面は、平城宮跡は、近隣に住んでいてよく親しんでいる生徒と、そうではない生徒で感じ方に差異があり、主題を生み出すにあたって、親しんでいない生徒にとっては平城宮跡に対して思いを持つことが難しいと感じたことから設定した展開であった。「私の大切な場所」「なくなってほしくない場所」について作文を書き、それを友だちに話すという活動を行ったことで、生徒たちは、自分と同様に他者にも個人的な体験に基づく場所に対する思いがあるということを実感し、今まで自分とは関係がないと見ていた場所も、誰かにとっては大切な場所なのではないかと思う視点を手に入れたように感じた。この視点を持って制作を行うことで、物事を自分から見た目線だけで捉えるのではなく、多面的に捉える力が育ったのではないかと思う。

また、作文を語り合う場面に加え、制作の中で画用紙に色を塗ったあとに「なぜその色を塗ったのか」を友だちと語り合う場面を設けたり、最後の鑑賞の場面で、自分の作品について友だちに語り、友だちの語りを聞くという形式をとったりしたことで、コミュニケーションの力を育成する学習環境を作ることができた。制作を終えて、完成した作品を語り合う生徒の姿から、風景には地域の文化・歴史とそこに住む人々の思いがあること、その中には自分の思いも入れることができることを何らかの形で感じとっている様子が見られたと思う。

②教科連携の観点

本題材は、美術科と社会科の教科連携で行った。社会科は歴史的事実や事象に対する客観的視点を持つたり、批判的に思考したりする力を育成する教科性を持っている。一方、美術科は、自分の中から生まれる思い（主観）から主題を生み出し、表現する力を育成する教科性を持つ。2つの教科の教科性は、対照的であるが、どちらも豊かな人間形成には必要な能力であると思われる。本実践では、美術科では取り上げることが難しかった平城宮跡の歴史や復元の経緯などを社会科で扱い、社会科では扱いにくい、人々の気持ちや自分の思いを通して平城宮跡を見るという視点を美術科で扱うことができた。その点で、本実践を通して、教科連携の意義を見出すことができたと思う。

課題

実践を終えて、作品から、どのように生徒の変容を見取るかが今後の課題であると感じた。対話の場面

やアイデアスケッチ等のワークシートの記述から、生徒が様々な思考している様子は見取ることができたが、実際に ESD の価値観の変容につながっているのか、どのような変容が生徒の内面に起きたのかについては、具体的に捉えることが難しかった。本題材で言えば、平城宮跡に親しみのある生徒とそうでない生徒の作品を比較したり、作品制作後の総合学習での活動の様子を追調査したりといった、生徒の見取りの方法を検討していくと、教科連携の効果や題材設定の意義を見出しやすくなると思われる。

中学校で学ぶ教科は、それぞれの教科性を持って生徒の学びを創出している。これからの社会をつくるために行動し、豊かで幸せな人生を生きる子どもたちを育てるために、美術科は美術科としての学びを深める題材をつくと同時に、本題材の成果をもとに、他教科と互いに連携しながらより豊かな学びの場の創出に向かっていきたいと思う。

5. 生徒作品



色を塗った画用紙



制作の様子



生徒作品



生徒作品

6. 参考文献

国立教育政策研究所(2020), 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校美術」

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_bijyut.pdf (2024. 2. 2 確認)

中澤静男・田渕 五十生(2014), 「ESD で育てたい価値観と能力」, 奈良教育大学教育実践開発研究センター, 教育実践開発研究センター研究紀要, 23 号, pp65-73